**北海道の路線バスで全国初の「アイヌ語案内放送」　アナウンスは18歳の大学生が担当**

しそうなアイヌ語をに感じてもらおうと、北海道のの路線バスで2018年4月から、アイヌ語によるが始まっている。アナウンスを担当したのは、アイヌにルーツを持つ18歳の大学生だった。

日本語でのアナウンスの後に、アイヌ語で同じがくり返される。公共交通機関でのアイヌ語での車内放送は国内初という。

からは、「がいい」「が柔らかい」「自然に耳に入ってくる」などとながせられてるという。

日本語のアナウンスをアイヌ語にするを担当した1人が、アイヌ文化博物館のさんだ。の言葉としてさせるために、翻訳の際には、アイヌ語の新しいをつくりだすこともみたという。

例えば、「学校」。アイヌ語に同じ意味の言葉がなかった。関根さんによると、「アイヌ語にはにした西洋のが少ない」ためだという。このため、「本を見る家」を意味する「カンピヌカッチセ」と訳された。

### **アナウンスは18歳の大学生が担当**

アイヌ語のアナウンスを担当したのは、当時18歳だった1年のさんだ。アイヌ文化のや、言語のについて学んでいる。

さんはルーツをアイヌに持ち、で育った。小学生のときには「アイヌ・」の「アイヌ語」の子供の部で、2度のを果たしている。

の方言があるアイヌ語の中で、で使われている沙流（さる）方言に幼い頃かられてきた点や、若くて元気のある声がされ、摩耶さんにのが立った。

摩耶さんはハフポストの取材に、アイヌの言語や文化への思いを語ってくれた。

### **■アイヌ語が日常だった二風谷の生活**

人口の75%がアイヌといわれるで暮らしていたので、日常生活の中にアイヌ語がりんでいました。

小さな子供でもアイヌの言葉を理解することができ、例えば私は雪を見て、自然とアイヌ語で「ウパシだ！」と言っていました。そんな、アイヌ語と日本語のがいようなで育ちましたが、多くの人はに話せるわけではありません。

アイヌのリーダーとして知られるさんが「親子のアイヌ語」という教室を開いていて、私はそこに両親と通っていました。2006年5月に萱野さんが亡くなる直前まで教わっていたので、私が萱野さんからアイヌ語を習った最後の世代ということになります。

### **■アイヌから遠ざかった時期も**

高校からの学校に進みましたが、そこではアイヌは身近な存在ではなく、授業でアイヌ文化を紹介されても「アイヌってまだいるんだ」というようながあることを目の当たりにしました。

祖父母の世代では「あ、イヌだ」などというないじめを受けていたという話を聞いていたこともあり、自分も同じような目にあうのではないかという思いを持ちました。

自分がアイヌであることをネガティブなこととしてえるようになって、あまりしないようにしていた時期もあります。

### **■はハワイで訪れた**

高校2年生の時に国際交流プログラムでハワイを訪ねた際に、先住民の方々と交流する機会があり、自分がアイヌだと伝えると、アイヌの踊りを踊って欲しいというようなになりました。

その頃は、あまりアイヌについての活動をしたくないと思っていたので、ネガティブなイメージをかれないだろうかと不安に思いながら踊りました。すると、ある先住民の男性にを流しながらこう言われたのです。

「日本に行った時に、外国人だからと誰も相手にしてくれず、家にも入れてくれなかった。だけど、アイヌだけは家の中に入れてくれてご飯も食べさせてくれたんだ」「ここで踊りをしてくれたことをりに思って、家に帰っておじいさんやおばさん、ごに伝えてください」。その時以来、のようなものを感じ、アイヌ文化についての活動に力を入れるようになりました。

### ã¤ã³ã¿ãã¥ã¼ã«ç­ããé¢æ ¹æ©è¶ãã**■「カッコいい」アイヌをしたい**

アイヌには、日本によるのために、いきなり日本語で授業が行なわれる学校に連れていかれ、についていくことができなくなったという人がたくさんいます。実際、アイヌのや学力のが低くなっているというデータもあります。

もともと、アイヌは文字を持たない民族なので、した言葉を何時間も語って伝えるなど、とても頭を使ってきた人々でした。しかし、言葉をわれることで、自分たちの文化を語ることもできなくなってしまう。

そんなから、私は大学に進んで、しっかりとアイヌの言葉をしようと思ったんです。まだ、に話せるレベルではありませんが、言葉は学べば学ぶほどが出るものなので、今後も勉強を続けていこうと思っています。

多くの人々に「アイヌ文化ってカッコいいな」と認めてもらいたい。と自分はアイヌだと言って生きている人は、カッコいいと思うんです。例えば、「自分は日本人」と思っていても、日本の文化はあまり知らないし、自分が大事にしたい文化を持たない人はたくさんいると思います。

日本人にらずたくさんの人に、私が「アイヌだ」と言って生きているところを見て欲しいし、何かを持っているってカッコいいなと思ってもらえれば、アイヌ文化にれてもられるきっかけにもなるかと思います。

実際、大学の友人など私の身の回りでは、日常の会話の中でアイヌの言葉を使ったりとアイヌ文化やアイヌ語に興味を持ってくれる人が増えてきていて、ちょっとずつ広がっているとしています。

「カッコいい」姿を見せることができれば、私がかつて抱いたようなネガティブなイメージを次の世代に引き継ぐこともなく、アイヌとしてをって生きることができるようになるのではないでしょうか。

伝統を大事にしながら、私たちの世代なりの新しいアイヌ文化を発信して、「カッコいい」と共感してもらう。が見えないではありません。車内放送も、公共ので日常的にアイヌ語が流れるということで、挑戦の一歩です。私をで育ててくれたおじいちゃん、おばあちゃんたちは、「摩耶には期待しているよ」と言っていました。彼らが思いいてきた、アイヌであるということが普通の社会をすることが、私を支えてくれた人々へのしになるのではないかと感じています。

まだまだ、のない自信かもしれませんが、アイヌ文化は必ず世界に認められ、やしてはいけない大切な文化だと多くの人に理解してもらえると信じています。

語いリスト

・：言葉や音楽を聞いた時の気持ち。　　耳心地がいい

　　e.g. 耳にいいとも言う

・のが立つ：多くの中から特にばれること

・のない：false confidence

・をる：自信をもっているをとる、りに思う

・をって生きる：自信をもっていきる、誇りに思って生きる

・先が見えない：将来どうなるかわからない、uncertain,